

行政視察研修

委員会・会派

議会運営委員会

会議録作成支援システムの導入と市民に分かりやすい議会運営をめざして

平成19年8月2日～3日、茨城県取手市と福島県須賀川市の視察を行いました。

取手市議会では、音声認識による会議録作成支援システムを導入し、本会議及び委員会の会議録を作成しています。このシステムは、音声を認識しパソコン上で文字化され



会議録作成支援システムを進める取手市にて

たデータを、複数の職員が同時に編集するものです。この結果、本会議のテープ反訳に係る委託経費を全額削減することができ、委員会の会議録作成に費やしていた職員の時間外勤務を大幅に削減することができたとのことです。また、リアルタイムに会議録の編集作成に取りかかることができるようになり、本会議の会議録発行まで約2週間の短縮が可能になったとのことです。

須賀川市議会では、市役所ロビーや支所等で議会中継を見ることができるようになり、インターネットによる議会中継の準備を整えるなど、市民に分かりやすい議会運営をめざし、さまざまな取り組みをしていました。

クリーン・ネット21

産後ママヘルパー派遣事業・



北しりべしクリーンセンター前にて

嫌う、現代世相を反映しているようです。3日は、小樽市を含む1市4町1村で構成する「北しりべし廃棄物処理広域連合」が設置し平成19年4月より供用開始となったクリーンセンター及びリサイクルプラザを視察しました。総工費69億円、1日24時間の処理能力197トンの、新施設です。4日は、江別市「江別河川防災ステーション」を視察、一般河川石狩川及び千歳川を擁し、水害等に対する重要度が高いため、合流地点の高地建設したものです。

鴻創会

市民参加推進条例・中心市街地活性化・ハイランドふらの・市民とつくる新図書館

平成19年7月9日～11日、

北海道旭川市、富良野市、帯

広市を行政視察しました。

旭川市では、市民が自ら主

体的に発言し提案し行動することができるとまちづくりを推進していく上での強力な原動力になると自覚することによって市民と市との協働を基本に考えた市民参加の考えを確認するとともに将来に向かって更に市民参加を充実させ一層の推進をするために条例を制定しました。

富良野市では中心市街地はふらのまちづくり株式会社を中心となり商店街の販売促進、企画事業実施等、20の業務を担い、地元住民、観光客にも親しみ地元住民の出す店と起業家応援型の店の複合で構成してあります。ハイランドふらののは観光拠点の公共宿



観光と中心市街地活性化に取り組む富良野市にて

泊施設として人気で地元住民の憩いの場として重宝されてきました。

帯広図書館は市民公募債により建設され、寄贈圖書の活用など自分達の図書館は自分で作るという投資意欲がうかがえました。

鴻巣フロンティア

JR松山駅周辺整理事業・環境対策プロジェクト・淡路花博のその後

平成19年7月30日と31日に、愛媛県松山市・東温市及び兵庫県淡路花博記念事業協会を訪れ視察しました。

松山市では、市民参加のものとして『みんなでつくろう みんなの松山』をスローガンにまちづくりを推進してまいりました。市の中央を走る予讃線に



松山市役所にて

より、市街地が東西に分断され、市民の生活に多大な支障を来している現状に対し、2400メートルの鉄道高架事業を進めていきました。市民・企業・行政が一体となり推進している様子は、大変参考になりました。

東温市では、エコキッズ支援や省エネ新エネの推進等を積極的に取り組んでいました。とりわけ小学生達の校内校外学習を含めたエコマニ育成事業は、見習うべき点が多々あったと思います。

花博記念事業協会では、7年前に開催された「淡路花博その後」について検証し、イベント終了後の施設活用等を含め、再考する機会となりました。

一人会派クラブ

長野県須坂市就業支援センター・ゆめわーく須坂

今日、労働法規の相次ぐ規制緩和によって労働者の3人に1人が不安定雇用の状況で格差と貧困の要因となっている。行政の雇用対策の実践例



ゆめわーく須坂就業支援センターにて

として視察した。

一、学生・フリーター・求職者を対象とした職業準備セミナーへの誘導

二、職業観の早期醸成事業、

小5・高2の職業現場見学

三、「職業支援センターニュース」の発行で情報発信

四、ゆめわーくサポートネットワーク

企業の採用担当者、高校の進路担当者、勤労者や市民の代表、ハローワーク担当者などで構成し、提言と情報交換とともにできる事を探る。

平成17年度より発足し、19年7月まで延利用者644名。昨年7月から始まった無料職業紹介で8名の就職が決まった。市長がかわり、産業の振

興・雇用の推進に力を入れた施策として実現している。本市においても研修の成果の施策を提言して参ります。

公明党

美祢PF工方式刑務所・萩景観と博物館・益田のまちづくり

8月6日～8日に山口県・美祢市、萩市と島根県益田市の視察研修を行いました。

美祢市は炭鉱閉山で過疎化が始まった街ですが、美祢社会復帰促進センターは国内初のPFI方式による刑務所が矯正施設を併せ持った施設として、平成19年5月に誕生



益田市まちづくりの説明

し、公権力の行使を伴う業務以外の施設警備・職業訓練・収容監視・健康診断等が委託業務内容であります。収容定員は1000人で、国職員123人、民間職員180人が働ける人材再生の多様なプログラムを基本とする収容棟です。

萩市は世界に誇る都市遺産が当時の姿で数多く残されており、これを後世に残す為に、景観計画区域や景観形成基準を策定し、重点区域では最高高さを13メートル以下で周辺の町並みとの調和に配慮する取組みを行っております。

「萩まちじゅく博物館」は、まち全体を屋根のない博物館と見立てた観光地づくりであり、「ものしり博士検定」など、地元の人で我が町を愛する市民が急増し、これが年間観光客240万人を常時確保することにつながっています。

益田市は地域住民と行政が連携し、市民提案型みんなで未来のまちづくり事業を実施し、市民活動団体の自発的・自主的な提案事業活動を補助し市民参加型の行政運営を目指しています。